# MAIL Order List 2025-#2 （2025 年 4 月 25 日作成）

www.tambourine-japan.com
email: song@tambourine-japan.com
email: tambour@ya2.so-net.ne.jp




（List 2025-#2 紙版使用表紙ジャケット）
ERIC ANDERSEN/Blue River Live in Tokyo(USA)

**ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。**
**Ａ￥１９８０(税込み¥2178)　Ｂ￥２１８０(税込み¥2398)**
**Ｃ￥２３５０(税込み¥2585)　Ｄ￥２５８０(税込み¥2838)**
**Ｘ￥４８０(税込み¥528)　Ｙ￥９８０(税込み¥1078)　Ｚ￥１４８０(税込み¥1628)**
**《数字表記価格は税込み》**
**※発売年が 10 年以上前の商品は検品してお届けします。**

**（送料）**
**※ご注文枚数に関係なく《一律１８５円》郵送**
**ただしＬＰを含む場合は一律６６０円。**
**※代金引換送料（郵送）：590 円何枚でも）**
**ＬＰを含む場合は＋２５０円。**
注文方法サイト：　http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm

**【ご注文はできるだけ 5/10 までにお願いします】**
にてお願いします。
●ご注文の際、プライス又はプライス･コードをお書き願います。
●お問合せはメールにてお願いします。



**（タムボリンの隣のクヌギの森の新緑）**

（新緑の季節到来！通販リスト）
*ゴールデン･ウィーク直前の通販リストになりました。今回の米国の SSW(シンガー･ソングライター)系の新譜の目玉は Eric Andersen の"Live In Tokyo"ですね。これを目出度発売してくれたイタリアの New Shot から発売の Tom Ovans, James Talley, Dirk Hamilton の新譜は、何れも Woody Guthrie や Bob Dylan の影響を受けつつ、独自の音楽を体現していて聴き応えがありました。Bob Dylan の伝記映画「名もなき者」を観たこともあって、よりガスリー/ディラン目線で聴く楽しみが出来ました。
*南部ロックの申し子？の Mattie Schell のデビュー･アルバムは南部ロック～スワンプ･ファンは元気もらえる一枚です。
*ブリティッシュ･フォーク関係は Liz Overs の新譜はブリティッシュ･フォークの重要作。Chris Brain の新譜は Chris 通販リスト発行後の臨時情報で品薄となってしまって、CD を補充しました。
*トラッド関係はアイルランドの Danu と Friel Sisters の新譜が一推し。Friel Sisters は昨年 12 月に商談が成り立たず。今月、為替市場で円が反発したときを見計らって発注。どうにか税込み 3000 円以下で販売出来る仕入れ値で仕入れることが出来ました。４ヶ月遅れでやっと販売できます！
*トランプ関税の影響か、最近ややドル安気味ですが、米国からの小包料金が大幅に値上がり。悩みの種になっています。

（分割払い）
*分割払いをご希望の方はお申し出下さい。最初のお支払いは請求額の半額になります。残り半額は 5 月 25 日まででＯＫです。


USA, Canada, UK & Ireland, England, Scotland, Ireland,

Europe 他, その他(セール), あとがき


（ジャケ写掲載分が初入荷と初コメント商品です）

[CD,LP/USA{Singer & Songwriter]






(Mattie Schell)　(Guy Clark)

*MATTIE SCHELL:Everything Means Nothing(CD)　C
*MATTIE SCHELL:Everything Means Nothing(LP)
¥4780(税込み¥5258)

(南部ロック～スワンプ系の若き女性シンガーの Mattie Schell の素晴らしいデビュー･アルバム。プロデュースは現在 Luther Dickinson とデュオで活動するブルース･ギタリストの J.D.Simo。J.D.Simo は彼女のソウルフルなヴォーカルを南部志向だが、音

楽性はジャズやファンクやフォークなどアメリカ音楽的に幅広い音楽性を混ぜ込んで、今の時代のポジティヴなルーツロック・サウンドで下支えする。そんな音楽を担ったミュージシャンはJD Simo{ｴﾚｷｷﾞﾀｰ、ｱｺｷﾞ、ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ・ｳﾞｫｰｶﾙ},Joe McMahan{ｴﾚｷｷﾞﾀｰ,ﾗｯﾌﾟｽﾃｨｰﾙ},MJakob Baxter{ｴﾚｷｷﾞﾀｰ},Mark T. Jordan{ｴﾚｷｷﾞﾀｰ,ﾊﾓﾝﾄﾞB3 他},Todd Bolden{ｴﾚｷﾍﾞｰｽ、ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ・ｳﾞｫｰｶﾙ},Adam Abrashoff{ﾄﾞﾗﾑｽ},Nathan Gilberg{ﾊﾞｯｸｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ・ｳﾞｫｰｶﾙ}。Mattie 自身も二曲でエレキギターを演奏。彼女はいわば南部ロックの申し子。若いが Bonnie Raitt クラス。2025 作。Compass)

*GUY CLARK:Dublin Blues-30th Anniversary Edition(CD)　C
*GUY CLARK:Dublin Blues-30th Anniversary Edition(LP)
¥4780(税込み¥5258)

(1995 年発売"Dublin Blues"の 30 周年記念盤。2023 年にオリジナル･テープからリミックス＆リマスター化する際に未発表曲を発見。その未発表曲"Once More With Caution"{Emmylou Harris と Verlon Thompson がハーモニー･ヴォーカル}一曲を加えて記念盤で発売。ラスト曲に収められた"Once More With Caution"は"Dublin Blues"に違和感なく収まっていて、"Dublin Blues"の印象を朗らかにする。"Dublin Blues"久し振りに聴いたが、Guy Clark らしい Guy Clark の唄が懐かしい。ゲスト;Sam Bush, Rodney Crowell,Ramblin' Jack Elliott,Nanci Griffith, Emmylou Harris,Kathy Mattea,Verlon Thompson,Darrell Scott。ブックレットは Darrell Scott のライナーノーツ付。1995 年/2025 作。Compass)

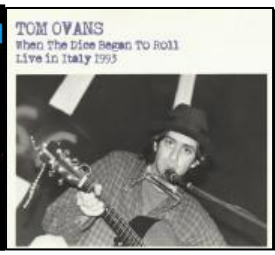
[LP/USA{Singer & Songwriter]

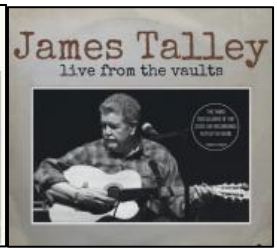
*SON OF THE VELVET RAT:Ghost Ranch(LP)¥4780(税込み¥5258)

(Georg Altziebler & Heike Binder の夫婦デュオ"Son Of The Velvet Rat"の本作は 11 枚目らしい。聴くなり釘付け。ソングライターの Georg の陰鬱なヴォーカルと Heike の寄り添うハーモニーの独特さと、一応ルーツロック風だが、ひねりや歪みのあるロックの独特さは、他の同類の音楽を寄せ付けぬ個性と孤高さがある。トータルに秀逸。2024 作。Fluff & Gravy)

[CD/USA{Folk､Rock}系]








(Eric Andersen)　(Tom Ovans)　(James Talley)

*ERIC ANDERSEN:Blue River Live in Tokyo　C

(Eric Andersen が 2012 年に日本で行ったライヴ。"Blue River"なムードが立ち上る鳥肌立つライヴ。音質もよし、ライヴの雰囲気もよし、Eric Andersen のヴォーカルもよし。プロデュースは Eric 自身。14 曲。2012 年/2025 作。New Shot)

※以下、レコード会社の宣伝文より。

1972 年の"BLUE RIVER"発売 40 周年を記念して 2012 年に東京で録

音されたエリック･アンダースンの新しいライヴ･アルバム。
"BLUE RIVER"発売から 40 年後、日本の有名な会場であるビルボードライブ東京のステージに魔法が戻ってきました。美しい妻の Inge とイタリア人ヴァイオリニストの Michele Gazich を伴奏に､エリックは 1972 年のアルバムが当時も今も成し遂げたことに匹敵する鳥肌が立つようなパフォーマンスを披露。
傑作は決して古びません｡芸術は古びません｡エリック･アンダースンが永遠の美を作り上げました｡それは事実です！
東京のステージで､エリックは彼の膨大な作品の中からオリジナルの"BLUE RIVER"には収録されていない５曲を追加でうたうのが適切だと感じました｡それらもこの 14 曲入りの CD に収録されています。

*TOM OVANS:When The Dice Began To Roll C
(ボストンの労働者階級の地区出身で､2000 年前後に素晴らしい Bob Dylan スタイルの SSW アルバムを発表していた Tom Ovans の 1993 年イタリアでのライヴ｡伴奏者は Doug Lancio{ギター}, Bob Kommersmith{ベース},Lou Ann Bardash{ヴォーカル｡Bob Dylan 風のだみ声とアコギ､スライド･ギター､ハーモニカの伴奏と Lou Ann Bardash のソウルフルなハーモニー･ヴォーカルは､初期 Bob Dylan 風のプリミティヴというかフォーク･ブルース色の濃いフォークだが､その味わいは Dylan より濃密｡その濃密さがむしろ彼の個性{オリジナリティー}になっている｡何かに取り憑かれたかのような彼の一途な唄の感動は言葉では言い尽くせない｡ルーツ志向であり､かつ稀有な個性派 SSW だ｡全 21 曲｡2025 作｡New Shot}

*JAMES TALLEY:Live From The Vaults C
(オクラホマのタルサ出身の SSW､James Talley の 2002 年イタリアでのライヴ｡伴奏者は DavePomeroy{ベース},Mike Noble{エレキギター},Gregg Thomas{ドラムス}｡Woody Guthrie 作６曲と J. Talley の自作曲５曲の全 11 曲｡バンド編成だが､バンドは補助的伴奏で全編ギター弾き語りの味わい｡Woody Guthrie/Bob Dylan 直系のプリミティヴなフォークやブルースに根付いた彼特有の滋味豊かでいぶし銀の唄は本ライヴで最高潮｡とりわけ本作は Woody Guthrie のナムバーを６曲取り上げていて､彼自身､自身の音楽のルーツに思いを馳せて丁寧に弾き語りしているように､渋く味わい深い｡静かに James の唄たちに耳を傾けて聴き入る観客の空気感も一緒にお楽しみ下さい｡2025 作｡New Shot}








(Jeff Black) (Dirk Hamilton) (Richard Meyer)

*JEFF BLACK:Bless My Soul / Live in Italy C
(1996 年イタリアでのギター弾き語りライヴ｡ナッシュビルを拠点に活動する SSW の Jeff Black のアルバムを聴くのはおそらく彼の３枚目の"Tin Lily"{2005 年作}以来｡ギターの弾き語りでうたう誠実な彼の唄を聴くと｢昔は良い SSW がいたなぁ｣とつく

づく思ってしまう。彼の唄の真っ直ぐさと清々しさに心洗われる。「Jeff Black はレナード・コーエンのバリトン瞑想とタウンズ・ヴァン・ザントのルーツ方言を持つ吟遊詩人」{レコード会社の宣伝文より}。Jerry Jeff が若々しく健やかになった印象。全 19 曲。2025 作。New Shot}

*DIRK HAMILTON:HALFsexLIVE C

(2001 年イタリアでのライヴ。全 14 曲。伴奏者は Eric Westphal{ベース},John Powell{ドラムス}David Hammond{リード・ギター}。Dirk Hamilton のアルバムを聴くのは彼の３枚目"Meet Me At The Crux"{1978 年作}以来。ライヴということで、彼の Bob Dylan スタイルのアクの強いヴォーカルの復活を期待して耳を傾けた・・・。おおお！期待通りというか、それ以上というか、彼のアクの強いヴォーカルは健在なうえに、バンドとのコンビネーションはバッチリ。それは Bob Dylan がギター弾き語りからフォーク・ロックに転身したときのフォーク・ロックのような真っ向勝負のフォーク・ロック。ぼくなどはディランの伝記映画「名もなき者」で、ディランを演じる主人公がフォーク・フェスで罵声を浴びる中果敢に貫いたフォーク・ロックを思い起こさせた。圧巻の全 14 曲。2024 作。New Shot}

*RICHARD MEYER:Bitter Moon C

(Jack Hardy 編集の Fast Folk の編集者でグリニッチヴィレッジの著名 SSW、Richard Meyer の 1999 年の未発表スタジオ録音アルバム。Peter Gallway との共同プロデュースで、エレキギター、ベース、ドラムス、スティール・ギター、オルガン等のフルバンド編成。バンド編成だが、ギター弾き語りのロマンティックな唄をベースに、軽やかなカントリー・ロック風ナムバーを足した曲編成で、胸キュン。2012 年に Richard Meyer が天国に行ってから日の目を見た彼のニュー・アルバムでラスト・アルバム。2024 作。New Shot}






(New Riders) (Bonnie Raitt)

*NEW RIDERS OF THE PURPLE SAGE
:Capitol Theatre Prassaic 1975 B

(1975 年 10 月、ニュージャージーのキャピトル・シアターでの New Riders のライヴ。音源は FM ラジオ{WNEW-FM}。John Dawson,David Nelson,Buddy Cage,Skip Battin,Spencer Dryden の強力ラインナップ。New Riders は Grateful Dead のカントリー路線を推し進めたカントリー・ロック・バンド。ちなみにデビュー・アルバムは Jerry Garcia もメムバーだった。この時代の彼らのカントリー・ロックはカントリー、ブルース、ゴスペル等をノリノリでロックしている。はち切れそうなパワーにぶっ飛ぶ。カントリー・ロックに勢いがあった時代の熱いライヴ。ロングヘアーが懐かしい。全 17 曲＋インタビュー。1975 年。2023 作。Timeline)

*BONNIE RAITT:Oakland 1989 B

(1989 年 11 月、カリフォルニアのヘンリー J. カイザー芸術センターでの Bonnie Raitt のフルバンド編成によるライヴ。音源は FM ラジオ{KMPX-FM}。Bonnie Raitt を熱心に聴いたのは彼女の四作目"Streetlights"{1974 作}まで。南部志向の濃い彼女の音楽は不変で、姉御肌のヴォーカルとスライド・ギターをフィーチャーしたアメリカン・ロックで圧倒する。全 10 曲。1989 年/2023 作。Timeline)

*LIV GREENE:Deep Feeler C

(「このアルバムは完全に自伝的です」と言うライヴ録音の本作。若き女性 SSW の Liv Greene は Emmylou Harris や Kate Wolf や Gillian Welch 等の米国の女性 SSW の伝統を受け継ぎ、見事に米国フォーク・スタイルの美しい SSW アルバムを創作。唄それぞれに心が宿っていて、彼女の情感が裏返るヴォーカルで自然に生み出されている。またペダル・スティール、マンドリン、フィドル、オルガン、エレキギター、ベース、ドラムス等による伴奏も、この手の音楽としてはトップクラスの熟達したカントリー・フレーバーなルーツ・サウンドを作りだしていて、全てが美味。2024 作。Free Dirt)

*WILLIE WATSON:Willie Watson 在庫 1 枚 C

(Gillian Welch の Acony レコードから二枚のアメリカン・フォークのアルバムを出していたフォーク・シンガーの Willie Watson の七年振りの本作は、アメリカン・フォークを自身の音楽として昇華した上で、SSW として自立した唄を毅然と創作していて、その存在感ある唄は、他の米国 SSW を寄せ付けぬ見事さ。名盤。2024 作。Little Operation)

*JASON ISBELL AND THE 400 UNIT
:Live From The Ryman.Vol.2 ¥2890(税込み¥3179)

(二枚組。アラバマ出身の SSW の Jason Isbell と彼のバンドによるライヴ・アルバム。過去６年間のライヴ音源からの全 15 曲。Jason は 21 歳のときにマッスルショールズの Fame スタジオと契約をし、15 年間 Fame で活動したという。しかし Jason の音楽性は南部志向ではなく、西海岸ロック・スタイルのルーツ・ロック。Jason のヴォーカルは若々しくエネルギッシュで勢いがあるし、二台のエレキギターが前面に出た重厚感あるバンド・サウンドは滅茶苦茶かっこいいし、バンド・メムバーのバッキング・ヴォーカルを含めた一体感が凄い。2024 作。Thirty Tigers)

*VIV & RILEY:Imaginary People C

(これは面白い男女のフォーク・デュオだ。Viv & Riley はマルチ楽器奏者で SSW の Vivian Leva と同じくマルチ楽器奏者でシンガーの Riley Calcagno の二人とも２０代半ば。二人の歌唱スタイルは古臭いフォークでありながら、マルチ楽器奏者のテクとアイデアを活かして生まれた音楽は創作意欲に充ちて伝統的でありかつ多彩でポップ。と同時にノスタルジックなムードを作りだしている。二人は古いバラッドや伝統的な物語をリメイク等して、米国トラッド＆フォークを超えた独自の新感覚の音楽を活き活きと創作している。2023 作。Free Dirt)

*JEFFREY FOUCAULT:The Universal Fire C

(本作はライヴ録音だが、粗くも詩的なニュアンスのヴォーカルで毅然とうたう Jeffrey の孤高の唄の孤高さとバックバンドの土臭いルーツロックの見事さは、SSW アルバムの名盤クラス。デ

ジタルの時代に Jeffrey の気骨ある生身の唄とこれまた気骨ある生身感のあるバンド･サウンドは驚くとともに何とも頼もしい。2024 作。Fluff & Gravy)

*SAMMY WALKER:Days I Left Behind C
(1986 年､Sammy Walker のイタリアでのギター弾き語りライヴ。全 19 曲。化粧なし､スッピンの Sammy Walker ソング。ギターをお伴にし､Sammy Walker 調でうたう彼の唄は優しく耳に心地よい。1986 年/2024 作。New Shot)

*GUTHRIE THOMAS:Live On Stage C
(1993 年､Guthrie Thomas のイタリアでの弾き語りのライヴ。全 11 曲。彼の誠実な唄が静寂の中､生き生きと収録されていて､ギター弾き語りフォーク･シンガー/SSW としての彼本来の魅力が 100%＋α味わえるライヴ･アルバム。1993 年/2023 作。New Shot)

*JACK HARDY:Live On Stage In Italy C
(1993 年に Jack Hardy がイタリア初公演を行ったときのライヴ。ライヴはバンド編成でメムバーは Jeff Hardy,David Hamburger,Wendy Beckerman。自身のギターに加え､ドブロ､ベース､そして Wendy のバッキング･ヴォーカルによる音楽は滋味豊かで彼の個性的な唄と一体化していて心和む。全 17 曲。1993 年/2023 作。New Shot)

*THE BURRITO BROTHERS:Together B
(嘘みたいにかっこよいカントリー･ロック。ヴォーカルもヴォーカル･ハーモニーもサウンドもあまりにも美味しすぎるワタクシ好みの常若のカントリー･ロック。2023 作。Store For Music)

*JEFFREY MARTIN:Thank God We Left The Garden C
(ポートランドの SSW の Jeffrey Martin の新作で四枚目。身震いするほどの素晴らしい SSW アルバム。2023 作。Loose Music)

*THE ORIGINAL HARMONY RIDGE CREEK DIPPERS
:Zola And The Tulip Tree Z
(Mark Olson,Victoria Williams,Mike Russell のトリオの 1999 年作。Mark Olson のヴォーカルも Victoria Williams のヴォーカルもそしてカントリー･フィーリングなサウンドもゆるいゆるい。西海岸産ノホホーンなルーツ･ロックの金字塔。ゲスト:Don Heffington{ﾎﾞﾝｺﾞ他},Eric Heywood{ペダル･ｽﾃｨｰﾙ}。Creek04802)

*THE TEXAS KELLYS:Stay All Night Y
(アイルランドの老舗レーベル"Mulligan"から発売された６人組ルーツロック･バンドの Texas Kellys{Waterboys の Steve Wickham もメムバー}の 1991 年作。野趣なヴォーカルもルーツ色濃いごった煮サウンドは二流センスもあって､職人芸級。何も知らずに聴いたら､百戦錬磨の米国のヴェテラン･ルーツロック･バンドと思うだろう。検索したら米国アマゾンで 104 ドルで売っていた。Mulligan)

*MARK STUART:Songs From A Corner Stage Y
(Stacey Earle のご主人の Mark Stuart の 1999 年作のデビュー作。本作はのギターの弾き語りによる SSW 然とした曲調の悲喜こもごも感のあるタイプの曲と南部～ルーツ･ロック･タイプの曲が混在。彼のルーツ志向の唄の数々は心底感動的。ゲスト:Stacey Earle。Gearle)

[CD,LP/BRITAIN&IRELAND(SSW 系)]



(Liz Overs)

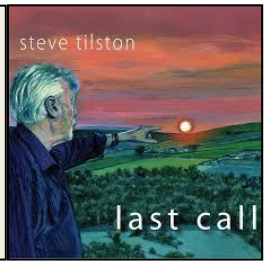
*LIZ OVERS:Nightjar(CD) C
*LIZ OVERS:Nightjar(LP) ¥4480(税込み¥4928)

(サセックスの女性フォーク･シンガーの Liz Overs は Chalk Horse Music のリード･シンガーで、その何年も前アトランティック･レコードと契約していて、業界に不満を抱き、10 年間うたっていなかったという。その彼女は現在、フォーク･シンガー、民俗学者で、サセックスの音楽、民俗学、社会史に関するラジオ番組の司会者を務めているという。"Cruel Sister"などトラッド曲４曲を含む本作は、1970 年代のブリティッシュ･フォークの不可思議な魅力の世界を旅するような感覚を抱かせる魅惑のブリティッシュ･フォーク。彼女は本作で自然、季節、伝説、幽霊、妖精などについてうたっていて、彼女のか細く今にも壊れそうな麗しいヴォーカルと Neill MacColl{Ewan MacColl の息子}と David Tomlins の各種ギターの神経の行き届いた美麗な伴奏と人気のベース奏者 Ben Nicholls の深みのある伴奏{Pentangle 的色合いを演出}は独創的で完全無欠。Liz のオリジナル曲はどの唄も詩的で想像力に富んでいる。ピカー。2024 作。Liz Overs)

[CD/BRITAIN&IRELAND(SSW 系)]




(Chris Brain)




(Steve Tilston)

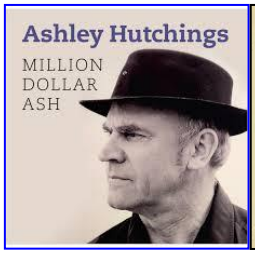
*CHRIS BRAIN:New Light(CD) C

(Chris Brain の三枚目。ギター弾き語りのフォークから彩りのあるフォークまで表現力の幅が広がっていて、それでいて、Nick Drake 風だが、Chris Brain らしい健やかな唄の魅力も不変。全体的な印象は明るくなった印象だ。実際に太陽、光、影、夢、夜、星などの言葉が本作では歌詞によく出てきていて、自然現象に心遊ばせる SSW としての独自の感性と英国フォーク･ギタリストとしての技量がさらに花開していて心躍らされる。本作では Bert Jansh 風なギターも披露しているが、アコースティックなギター･サウンドもその音を聴くだけで心洗われる。面白いのは Chris 自身が演奏するシンセサイザーが耳を疑うほどスティール･ギター風の音を出していること。Chris のヴォーカルにそよ風のように寄り添う Hannah Burgess & Zoe Cure のハーモニー･ヴォーカルも良いムードを創り出していて、夢うつつな気分。聴き流して

いて、これほど幸 せな気分になれる音楽は滅多にない。2025 作。
Big Sun)
*STEVE TISTON:Last Call B
(4/25 頃入荷予定。待望の新作！2025 作。Talking Elephant)
※本作は 50 年以上にわたるキャリアで輝かしい実績を残してきた
フォーク界の重鎮、Steve Tilston の新作。11 曲を収録したこの CD
は「社会問題、政治問題、自伝、トラッド・フォーク、ブルース、詩、そ
してほんの少しのジャズ」を網羅しています。リスナーは彼の言葉
が紡ぐイメージを通して、感情の起伏を揺さぶる音楽の波に引き
込まれるでしょう。(Folking.com より)
*IAIN MATTHEWS & AD VANDERVEEN
:Greetings From Grolloo C
(2003 年 3 月 1 日、Iain Matthews とオランダの SSW の Ad Vanderveen
の共演ライヴ。Iain Matthews の音楽は SSW の原点に戻ったかの
ような、ギターの弾き語りによる素直な唄ばかり。Iain が 9 曲で
Ad が 6 曲でリード・ヴォーカルを取っているが、唄はソロ＋デュ
エットの構成のためか、Iain Matthews のソロ・ライヴの印象が
強い。Ric Sanders が二曲で飛び入り共演。2003 年/2024 作。Radz)
*IAIN MATTHEWS:Excerpts From Swine Lake A
(1998 作。Blue Rose)
*MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:The New Mine C
(2020 作。MIG Music)
*MATTHEWS SOUTHERN COMFORT:The Woodstock Album C
(2023 作。MH Music)
*COLIN MACDUFF:Seperations B
(看護師退職後に高齢 SSW としてデビューした Colin Macduff の新
作で二枚目。本作のテーマは「別れ」。重いテーマだが、Colin の唄
は、前作と同様に自身が爪弾く響きの良いギターの弾き語りを
ベースにしていてひたすら穏やかで優しい。彼の人生経験から
生まれたとてつもなく優しい唄の魅力は計り知れない。音楽は
人生経験そして心。w.Maria Quinn,Angus Lyon,Jenna Reid。
2024 作。Gran's House Studio)
*JOHN B SPENCER:Left Hand Of Love A
(1998 年リリースの John B.Spenser[1944-2002])のコンピレーシ
ョン・アルバム。全 12 曲＋ヒドゥントラック 1 曲。改めて聴いて驚
いた。ゆるい曲調のナムバーばかりを選んだのだろうか。John B
の唄は飄々として渋く、いわば米国ルーツ・ロック志向の二流セ
ンスの英国ロック。フォーク、ブルース、テックスメックス、パブ
ロック、カントリー・ロック、オールドタイム等米国ルーツ・ロッ
クの旨み成分たっぷり。コンピだが、一枚のアルバムとして魅力
的。Round Tower)
*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow Z
(Naomi はまるで英国の Emmylou Harris。今の Emmylou ではなく、70 年
代の。Naomi の声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷の
ような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が
感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中
心にしたサウンドも新鮮。2011 作。Dusty Willow)
*MARTIN JOSEPH:Full Colour Black And White Y
(「今日のイギリスで最もカリスマ的で感動的なＳＳＷの一人。タ
フで情熱的な人物」とトム・ロビンソンが評した英国のＳＳＷで

ギター奏者の Martyn Joseph の 1996 年作。初心に帰ると自身の屋根裏部屋のスタジオで制作された本作は、内に秘めたパワーがシンプルに充実した名作。Grapvine)

[CD/FAIRPORT&FRIENDS]






(Ashley Hutchings)　　(THE GPS)

*ASHLEY HUTCHINGS:Million Dollar Ash　　B
(4/30 頃入荷予定。本リスト印刷中に新譜情報入手。Ashley Hutchings の新作！4 月 18 日、新作発売と 80 歳の誕生日を祝ってバーミンガムのタウンホールでコンサートが開かれました。Richard Thompson,Martin Carthy,John Tams,Phil Beer,Simon Nicol,Ric Sanders,Jim Moray そして息子の Blair Dunlop 等がゲスト出演したとのこと。2025 作。Talking Elephant)

*THE GPS:In 1981 There Was...ive In Concert　　B
(4/25 頃入荷予定。Ralph McTell,Richard Thompson,Dave Pegg,Dave Mattacks から成る GPS と呼ばれたスーパー・グループの既発表曲に未発表曲６曲を加えた発掘コンピレーション盤{The Band や Richard Thompson や Ralph McTell のナンバーを含む}！古い音源をクリーンアップしてリミックス。Ralph McTell と Dave Pegg は「GPS の音源はどこで見つけたんだ？素晴らしい音だ」と驚喜したとか。楽しみ！1981 年/2025 作。Talking Elephant)

*SIMON NICOL & RIC SANDERS:Greetings From Grollo　　C
(2003 年 3 月 1 日オランダでのライヴ。Ric Sanders のフィドルの演奏が付いた Simon Nicol のギター弾き語りの曲を中心に Ric Sanders のフィドルと Ric Sanders のギターのジャンルを超えたデュエット曲を加えた構成。"Crazy Man Michael"や"Rosemary's Sister"{Huw Williams 作}や"The Hiring Fair"{Ralph McTell 作}等の名曲がギター＆フィドルの素朴な伴奏で気分新たに味わえる。2003 年/2024 作。Radz)

*SDP:Vol Two　　C
(SDP{Sandy Denny Project}は Tradarr の Marion Fleetwood,Gemma Shirley,PJ Wright,Mark Stevens＋Sally Barker{再結成 Fotheringay,Poozies}のスーパー・フォーク・ロック・バンド。本作は二枚目で、Sandy Denny ソングを Tradarr 流に新たな英国フォーク・ロックで創作したもの。リーダー格の PJ Wright は{FotheringayII,The Dylan Project,Little Johnny England}は「忠実な複製を提供するトリビュート・バンドではなく、復活と再解釈、素材を楽しみ、Sandy Denny の言葉では言い表せない称賛すべき唄に個々の特徴を加えることがすべて」と。鳥肌立つ素晴らしさ。2024 作。SDP)

*TRADARR:Cautionary Tales　　C
(Sandy Denny Project の Marion Fleetwood,Gemma Shirley,PJ Wright,Mark Stevens に Gregg Cave,Guy Fletcher,Brendan

O'Neill の七人組フォーク・ロック・バンド"Tradarr"の 2015 年のデビュー・アルバム。彼らが体現するのは"Liege & Lief"をベースにした今の時代のオリジナルな英国フォーク・ロック。男女のヴォーカルをはじめバンドの演奏もその気概が十分に発揮されていて、彼らのポジティヴなフォーク・ロックは感動的。ゲスト: Dave Pegg,Chris Leslie,Rick Sanders,Jerry Donahue。Hedge Of Sound)

*LITTLE JOHNNY ENGLAND
:Greetings From Grolloo ¥2890(税込み¥3179)
(二枚組。Fairport/Fotheringay スタイルのフォーク・ロック・バンド"Tradarr"、"SPD"のリーダー格 PJ Wright 率いるフォーク・ロック・バンド"Little Johnny Enland"の 2003 年、オランダでのライヴ。メムバーは PJ Wrigh,Gareth Turner,Guy Fletcher, Mat Davies{ﾍﾞｰｽ},Edd Frost{ﾄﾞﾗﾑｽ}。Fairport スタイル＋モリス・ダンスの影響を受けた滅茶苦茶かっこいいフォーク・ロック。P16 のブックレット付。全 20 トラック。2003 年/2024 作。Radz)

[CD/ENGLAND]

*JACKIE OATES AND JOHN SPIERS:A Midwinter's Night C
(Jackie Oates & John Spiers による本作は、クリスマス期の伝統的な祝祭の歌と曲を集めたクリスマス・アルバム。今やイングランドのトラッド界を代表する Jackie のシンギングはイングリッシュ・トラッド的に理想的な味わいで美しいし、二人のハーモニー・ヴォーカルを含め、Jackie のリコーダー又は弓奏楽器と John のジャバラとのコラボは心を通わせてあって神業的に絶妙。モリス・ダンスの曲調を含め、ふくよかな英国トラッド調のトラッドは Chris Wood & Andy Cutting のふくよかな英国トラッドを想い起こさせる。名盤誕生。2024 作。Needle Pin)

*JANICE BURNS & JON DORAN:Great Joy To The New D
(イングランドの男女のデュオ"Janice{ｳﾞｫｰｶﾙ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ、ﾃﾅｰｷﾞﾀｰ、ﾋﾟｱﾉ他} & Jon{ｳﾞｫｰｶﾙ、ｱｺｷﾞ、ﾌﾞｽﾞｰｷ、ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾋﾟｱﾉ他}"の新作で二枚目のアルバム。キャロルやクリスマス時期にうたわれてきたトラッド曲を多く含むが、厳密に言えば、真冬の一年で最も厳しい季節のトラッド曲集。これが滅茶苦茶素晴らしい。二人の凛として穏やかで陰りのあるシンギングと絶妙のハーモニー・ヴォーカルは、理想のブリティッシュ・フォーク/トラッド。若い二人だが、まるでイングランドのトラッドの歌心を熟知したシンガー＆演奏家のように彼らの滋味豊かな音楽は心に深く響く。Produced by Andy Bell。名盤誕生。2024 作。JBJD003)

*JON BODEN & THE REMNANT KINGS:Parlour Ballads C
(Jon Boden の新作はビクトリア朝時代に全盛期を迎えたパーラー・ソング{バラッド}をタイトルしたアルバム。「用語の技術的な意味でのパーラー・ソングのコレクションではありません。古くて愛着のある、少し調子が狂った家庭用ピアノの音を呼び覚まし、親友との嬉しい再会を目指しています」という本作は、"On One April Morning"や"Bonny Bunch Of Roses"や"Rose Of Allendale"など約半数の曲は英国フォークやトラッド・ファンに馴染みの曲。Jon はビクトリア朝時代に想いを馳せ、一曲一曲を英国のフォーク・ソングとしてピアノを奏でながら、やや感傷的に朗々とうたう。感動はジャンルを超える。Produced by

Andy Bell。11曲。2024作。Hudson)
*JON BODEN:Songs From The Floodplain A
(デラックス･エディション限定盤。2009作。Navigator)
*CHRIS MANNERS:Bar Doors And Bang The Shutters Down C
(英国のSSWでギター奏者のChris Mannerの四枚目。1970年代以降数多くのギター弾き語りのフォーク･シンガーが産声を上げ、20世紀後半の英国フォーク･シーンを盛り上げてきたが、彼のシンギングとギターはその時代の英国フォークの味わいと魅力を律儀に保持していて、時代錯誤感に襲われる。それほど彼のシンギングとギターは英国フォークのコアの魅力を純粋に保持していて、その上で独自のフォークを英国フォーク的に気高く美しく花開かせている。15曲。ゲスト:Jon Loomes。2024作。99YRCD04)
*HOME SERVICE:A Live Transmission C
(今年で結成45周年を迎えたHome Serviceの何と8年振りの新作。本作は今年の３月に行った三つのライヴ音源からのライヴCDで、メムバーは大きく入れかわって、John Kirkpatrickもいなくなって、かつてのメムバーはエレキギターのGraeme Taylor{Gryphonでも活動}とドラムスのMichael Gregoryのみ。特筆すべきはヴェテラン･トラッド･シンガーのBob Foxがリード･ヴォーカルでフロントに立ったこと。Bob FoxはHome Service円熟のフォーク･ロックの真ん中で堂々たるシンギングを披露する。2024作。Talking Elephant)
*HOME SERVICE:Live 1986 A
(John Tamsがリード･ヴォーカルのHome Service全盛時の1986年ケンブリッジ･フォークフェスでのライヴ。1996年/2011作。Fledg'ling)
*STEVE TURNER:Curious Times C
(これぞイングランドのトラッドの真骨頂！と豪語したくなるヴェテラン･トラッド･シンガーでコンサーティーナ奏者Steve Turnerの新作。通算９枚目。自身が奏でるコンサーティーナをお伴にゆるくコブシの利いた何とも味わい深いシンギングは、齢を重ねた心あるシンガーのみが体得できる味わいだろう。w.Martin Carty,Moira Craig,Rob van Sante,Liz Turner,Allan Rose,Rikki Gerardy。全13曲。2023作。Tradition Bearers)
*THE ROSIE HOOD BAND:A Seed Of Gold C
(偽りの愛の物語"The Swallow"で幕開けするRosie Hood Band～Rosie Hood{ｳﾞｫｰｶﾙ､ｷﾞﾀｰ､ｳｸﾚﾚ､ﾌｨﾄﾞﾙ}､Nicola Beazley{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｳﾞｫｰｶﾙ}､Rosie Butler-Hall{ﾌｨﾄﾞﾙ､ｳﾞｫｰｶﾙ}､Robyn Wallace{ﾒﾛｰﾃﾞｨｵﾝ､ﾊﾟｰｶｯｼｮﾝ､ｳﾞｫｰｶﾙ}～の新作はイングランドの美しき女性トラッド･シンガー･アルバムの魅力に充ち満ちていて、心奪われる。2023作。Little Red)
※フォーク･エリート達の間でRosie Hoodの地位を真に確立した黄金の輝きに充ちた素晴らしいアルバム」{folking.com}。
*NICK HART & TOM MOORE:The Colour Of Amber D
(トラッド･シンガーのNick HartがNick Hartの各ソロ･アルバムでエンジニアリング等を担当していたTom Mooreがヴィオラとハーモニウムの演奏で共演。Nickはフォーク･リバイバル以降に陽の目を見たイングランドの豊富なトラッド曲からお気に入りの曲を英国トラッド調で朗々とシンギングするのだが、音楽は中世･ルネサンス音楽調。「このデュオによる最初のアルバムは

ここ数年の他の英国の伝統的なアルバムよりもはるかに優れている」{folkradio}。2023 作。Slow Worm)

*THE MUSIC OF WILLIAM KIMBER C

(コンサーティーナ奏者でモリス･ダンサーだった William Kimber{1872-1961}の未発表曲多数含む 32 曲収録マルチメディア機能付 CD。２冊の解説書付。1999 作。EFDSS)

*NICK WYKE AND BECKI DRISCOLL:A Handful Of Sky A

(男女の二人組の Nick & Becki による 2014 年作。双方がイングランドのトラッド･シンガーとして魅力的なシンギングを聴かせる上に二人がデュオで奏でるダンサブルなフィドルが新鮮で快い。またヴィオラに持ち替えれば重厚感が生み出される。イングランドのトラッドの気品と香りに満ちた英国トラッドの快作。WildGoose)

*THE CANNON HILL IRREGULARS:In Their Prime Z

(Anthony Ingle,Graeme Taylor,Michael Gregory,Jon Davie の四人{短期間を含め三人が Albion Band の元メムバー}のツワモノから成る The Cannon Hill Irregulars の 2017 作。英国フォーク＆カントリーダンス･バンドのフォーク･ロックの何と魅力的で楽しいこと！言うなれば Albion Dance Band～Albion Band 系フォーク･ロック･スタイルで存分にフォーク･ロックしていてメチャ最高！Talking Elephant)

*PETE CASTLE:False Waters Z

(フォーク蒐集家＆研究家でトラッド･シンガーの Pete Castle の 1995 年作。イングランドを中心にアイルランドや英国のトラッド/バラッドをギター等の弾き語りを中心に家族他と演唱した本作は「これぞイングランドのトラッド！」の輝きを放っていて感涙。14 曲。Steel Carpet)

*BOB PEGG:The Last Wolf Z

(元 Mr.Fox で元妻の Carole Pegg や Nick Strutt との共演盤が素晴らしい Bob Pegg の 1996 年作のソロ二枚目。本作は前作から 20 年の間の成果を厳選してまとめたアルバムで、曲のテーマは様々だが Bob Pegg の不思議な物語の世界へ誘うのに適したヴォーカルは最高潮で、見事に Bob Pegg 流ブリティッシュ･フォークの世界を創作している。ゲスト:Chris Coe。Rhiannon)

[CD/SCOTLAND]




(Fiona Soe Paing) (Atomaig Piseag)

*FIONA SOE PAING:Sand,Silt,Flint C

(アヴァン･フォーク{avant-folk}の実験家で歌手と自ら呼ぶ Fiona の本作は、2022 年にデジタル･アルバムのみでリリースされていたアルバムの CD 版。リリース後、幅広い批評家の称賛を受けたという。スコットランドの有名なバラッド･シンガーの John Strachan と親戚関係にあることを知り、本作を創作。スコットラ

ンドのバラッドや古代の物語を題材にして、イマジネーション豊かに自己流に創作した夢想的音楽。彼女のヴォーカルは夢うつつな表情で、電子音とチェロ、クラルサッハ、フィドル、ギター、クラリネット、ドラムスによるスコットランドの音楽を融合した音楽はとてもユニークで、別世界に誘われる気分。ジャケットには唄の舞台になった地がスコットランド北東部の地図で指し示されている。2022 年/2024 作。CSFSPCD2024401)
※疲れた冒険家や方向感覚を失ったタイムトラベラーにとって、ここはスコットランド北東部の風景、民間伝承、バラッドの伝統にインスピレーションを得た、ゆっくりと過ごし、耳を傾け、熟考し、休息し、息をつく場所なのです。{Fiona Soe Paing の HP より}
*ATOMAIG PISEAG:Direach Purr-fect C
(Atomaig Piseag は女性合唱団として 10 本の指では数え切れないほどの受賞歴を誇る実力派の女性ゲール語合唱団。本作は合唱団の二枚目。ゲール語の合唱団としてはアイルランドの Anuna が有名だが、彼らほど高度に洗練されてはいない。彼女たちの合唱はスコットランド・ゲール語の伝統歌の素朴な美しさと味わいを保ちつつ、伝統歌を現代的に解釈し、様々な合唱スタイルを考案し、革新的な合唱を創り出している。カラフルで美しくかつ楽しく、爽やかで力強くもある。全 12 曲。2024 作。Sradag Music)
*TRAIL WEST:Thirsty Work D
(西ハイランド地方とその島々の出身者から成る六人組フォーク・ロック・バンド"Trail West"の新作で通算五枚目。結成時はケーリー・バンドだったという彼らの音楽は、そのダンスの躍動感をロックの方向に洗練していったかのようにダイナミックなスコティッシュ・スタイルのフォーク・ロックを体現していて圧倒される。ヴォーカルは Jonathan Gillespie と Seonaldh MacIntyre の二人のシンガーは、いかにもスコティッシュ・シンガーらしい堂々たるヴォーカルでこれまた圧巻。生で聴いたら狂喜必至。2024 作。TW)
*MAIRI SINE CHAIMBEUL:Thall An Loch Aillse X
(Mod の優勝者でスコットランドのゲール語の女性トラッド・シンガーの Mairi Sine Chaimbeul の 2007 年作。w.Mary Ann Kennedy, Seoras Campbell,Findlay Napier,Hamish Napier,Ali Hutton, James Graham,Gillebride MacMillan。2007 作。Macmeanmna)

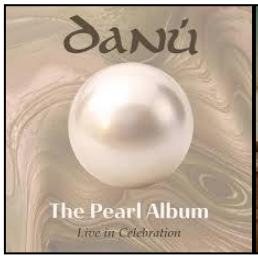
[CD/SCOTLAND,IRELAND]



(Allt)
*ALLT:Vol.II"Cuihne" C
(Julie Fowlis & Eamon Doorley{Danú}夫妻,Zoe Conway & John McIntyre 夫妻のスコットランドとアイルランドのトラッド界を代表するシンガー＆ミュージシャン四人からなるスーパー・グループ"Allt"の二枚目。本作は豊かなゲール語の詩の伝統を唄

のインスピレーション源として、アイルランドのゲール語とスコットランドのゲール語の詩と曲を彼らが新たに編曲したアルバム。ゲール語のトラッド・アルバムとしてワンランク上のヴォーカル・ミュージックを Julie Fowlis のシンギングを中心に四人でたおやかに創り上げていて、熟達したケルティック・サウンドの演奏をともなって、その音楽は清く優美で深い。アイリッシュ＆スコテイッシュ・ミュージックの傑作。2024 作。Machair)
※素晴らしいヴォーカル、上品な音楽性そして魅惑的な風通しの良いアレンジメント等あらゆる面で調和がとれている。{KLOF mag より}

[CD/IRELAND 系]
デジパック・タイプを含め、元々開封されているものが多数あります。



(Danu)



(Friel Sisters)



(Flook)

*DANU:The Pearl Album ¥3580(税込み¥3938)
(副題"Live In Celebration"。1995 年結成の Danu の結成 30 周年記念の二枚組ライヴ盤。30 周年に合わせて 30 トラック{54 曲}収録。2000 年作の彼らの二枚目"Think Before You Think"{1997 年作の一枚目を聴いたのはかなり遅れて}以来、名実ともにアイリッシュ・ミュージックのトップ・グループとして名を馳せてきた彼ら。その熟達した音楽を矢継ぎ早に聴かせ、聴き手を手玉に取る。評価するのがおこがましく思えるほど。前作より Muireann Nic Amhlaoibh に代わって加入したコークのゲール語地域出身のシャンノース・シンガーの Nell Ní Chróinín のシンギングがこれまた素晴らしい。現役の全女性トラッド・シンガーの中でも屈指。本作のバンド・メムバーは Nell Ní Chróinín {ﾘｰﾄﾞ・ｳﾞｫｰｶﾙ、ﾃｨﾝ・ﾎｲｯｽﾙ}, Benny McCarthy{ﾎﾞﾀﾝ・ｱｺｰﾃﾞｨｵﾝ}, Eamon Doorley{ﾌﾞｽﾞｰｷ}, Oisin McAuley{ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾊｰﾓﾆｰ・ｳﾞｫｰｶﾙ}, Ivan Goff{ｲﾘｱﾝﾊﾟｲﾌﾟｽ、ﾌﾙｰﾄ、ﾎｲｯｽﾙ}, Tony Byrne{ｱｺｷﾞ}, Billy Sutton{ﾊﾞｳﾛﾝ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ、ﾊｰﾓﾆｰ・ｳﾞｫｰｶﾙ}。アイリッシュ・ファン至福保証。2025 作。Danu)
*FRIEL SISTERS:Northern Sky ¥2680(税込み¥2948)
(衝撃の前作"Before The Sun"からほぼ七年。ドニゴールがルーツのスコットランドのグラスゴーの女性アイリッシュ・トラッド・シンガー三姉妹{Anna, Sheila and Clare Friel}の Friel Sisters の待望の新作{三枚目}。彼女たちのアイルランドの伝統歌や曲を古風で柔和で優美、かつ芯のしっかりしたシンギング{軽やかなリルティングを含む}とイリアン・パイプス、フルート、フィドルによる演奏は、軽やかで野太く、以前より増してアイルランドの巨匠たちの演奏を想わす風格があって、感涙。アイリッシュのグルーヴ感はトップ・クラスのバンドと肩を並べる。本作ではカウンティ・ダウン出身のアイリッシュ・ギタリストの

Marty Barry とドニゴール出身のブズーキ奏者の Cathal Ó Curráin{二人はデュオで活動中}がメムバーの一員で参加していて、二人の軽やかなギター＆ブズーキが三姉妹のアイリッシュに彩りを添えている。ゲスト:Sean Og Graham。2024 作 12/30 リリース。Friel Sisters)

*FRIEL SISTERS:Before The Sun(2017 作。Friel Sisters)　D

*FLOOK:Sanju　C

(Brian Finnegan{ﾎｲｯｽﾙ、木管ﾌﾙｰﾄ},Sarah Allen{ｱﾙﾄ･ﾌﾙｰﾄ},Ed Boyd{ｱｺｷﾞ},John Joe Kelly{ﾊﾞｳﾛﾝ}の Flook の６年振りの新作。Brian Finnegan の曲９曲、Sarah Allen の曲４曲、Sarah Allen と Phil Cunningham の共作曲１曲、Liz Carroll の曲１曲の曲目構成で、Brian と Sarah のホイッスルやフルートをフィーチャーした Flook らしい、肌に心地よい風のように流麗なアイリッシュ･ミュージックを繰り広げていて、Ed の粒立ちの良いアコギの音色と John のテムポの良いバウロンのリズムが流麗さに彩りと勢いを付加している。これぞ Flook スタイルの音楽！加えてフィドル奏者 Patsy Reid 等のゲスト･ミュージシャンが Flook サウンドに多彩さを添えている。彼らの爽やかなアイリッシュに心も爽やか。Welcome Back!2025 作。Flatfish)

*THE HALF ROOM:The Half Room　在庫１枚　D

(Half Room は Lumiere の Pauline Scanlon とアイリッシュ･ヴォーカル･トリオ"Whileaways"の Nicola Joyce の二人の女性シンガーと、シンガーでナイロン弦ギター奏者の Eoin Wynne とシンガーで金属弦ギター奏者の Fabian Joyce の二人の男性シンガー＆ギター奏者の四人組ヴォーカル･グループ。2024 作。The Half Room)

*FRANCES MORTON:Sliocht　C

(グラスゴー生まれで現在アイルランドに住むアイリッシュ･フルート奏者の Frances Morton のデビュー･アルバム。タイトルの Sliocht は痕跡または血統の意。父親が好きだった曲やセッションなどで教わった曲や子どもの頃に好きだった曲やアルバムや{Vinnie Kilduff の}教則テープ{この曲のみホイッスル。この曲最高！}などで覚えた曲などを演奏するのだが、どの音楽も愛情深いというか心のこもった演奏で、{スコティッシュも二曲ほどあるが}、アイリッシュって良いな～、と素直に思える音楽。Eamon McElholm{プロデューサでもある},Ciarán Tourish, Seamus O'Kane,Julie Langan,Mark Maguire,Malcolm Stitt, Ryan O'Donnell 等の名演奏者達との息もぴったしで、France のフルートはよくうたっている。Frances のパートナーでゲーリック･シンガーの Doimnic Mac Giolla Bhríde が一曲泣けるシンギングを披露。本作は昨年亡くなったメイヨー州出身の父親に捧げられている。2024 作。FM2024CD)

*MOLLY DONNERY & THE CIDERHOUSE REBELLION
:A Little Bit Slanted　¥3150(税込み¥3465 円)

(歌詞ブックレット＋CD セット。本作は受賞歴のある女性アイリッシュ･トラッド･シンガーの Molly Donnery と英国の男性二人組の Ciderhouse Rebellion～Murray Grainger{ｱｺ} & Adam Summerhayes{ﾌｨﾄﾞﾙ}～のコラボ･アルバム。ゲール語と英語とでうたう Molly のアイリッシュ･ソングは軽やかで清々しく、Ciderhouse Rebellion の二人は Molly のメチャ素晴らしいシン

ギングと楽器で響き合うような演奏をしていて、Molly の美味シンギングをナチュラルに高めている。2024 作。Under The Eaves)

*CUAS:Cuas C

(Cuas は Seamus Begley の娘の Méabh Ní Bheaglaoich{ヴォーカル、アコ}, Nicole Ní Dhubhshláine{コンサーティーナ、フルート}, Niamh Varian-Barry {ヴォーカル、フィドル他}, Kyle Macaulay{ギター、ブズーキ}から成るアイリッシュ・グループ。本作は友人や家族の前で録音されたライヴ・アルバムで、ノセノセの音楽も空気感も滅茶苦茶アイリッシュなライヴ感に充ち満ちていて、大盛り上がり。Méabh のゲーリック・シンギングの二曲と Méabh & Niamh のデュエットの一曲の計三曲はアイリッシュ・トラッド・シンギングは清楚なシンギングで感動的。2024 作。Cuas)

*ELIXIR:Elixir C

(録音は 1983 年 10 月と 1984 年３月。本作はブルターニュのシンガーでティンホイッスル、フルート奏者の Pol Huellou の呼びかけで集まったミュージシャンによるセッション・アルバム。集ったのは Liam Weldon{ヴォーカル}, Sean Howley{ブズーキ}, Brian O'Donoghue{ギター}, David Hopi Hopkins{バウロン}の四名。呼びかけ人の Pol Huellou のティンホイッスルの演奏が素晴らしく、ブズーキ、ギター、バウロンの演奏も誘発されるように見事な演奏を繰り広げる。Liam Weldon の貴重シンギング二曲収録。1984 年/2021 作。Goasco Records)

*CILLIAN VALLELY & DAVID DOOCEY:The Yew & The Orchard C

(Lunasa のイリアンパイプス奏者の Cillian Valley と Grada のフィドル奏者の David Dooce のデュオ・アルバム。ふたりが奏でるアイリッシュの見事さは言葉を失うほど。イリアンパイプスとフィドルによるアイリッシュの魅力が詰まっている。全てが超一流。Sean Og Graham の巧妙なギターもお見事。2023 作。Cillian Vallely & David Doocey)

*THE LARK ON THE STRAND:The Lark On The Strand C

(本作は 2000 年一月に Sesoaimhín Ní Bheaglaíoch{Macalla/ヴォーカル}, Charlie Piggott{De Danann/アコ}, Peter Browne{1691, Bothy Band [Paddy Keenan の代役] /イリアンパイプス}, Gerry Harrington{フィドル}が"The Lark On The Strand"の名でアイルランド・ツアーをしたときのライヴ・アルバム。アイリッシュ・ミュージック界のプロフェッショナル三人によるアイリッシュは、様々なタイプのダンス曲をあの手この手の名演奏で舌鼓を打たせる。加えて Sesoaimhín の滋味豊かなゲール語のシンギング付。全 34 曲！2000 年/2022 作。LOTSO01CD)

*LILLEBJORG NILSEN ・ ANDY IRVINE:Live In Telemark C

(本作は 1994 年にノルウェーのフォーク・フェスでの Andy Irvine とノルウェーの SSW の Lillebjorn Nilsen の共演ライヴ。2020 年作。Heilo)

*PADDY KEENAN･TOMMY O'SULLIVAN:The Long Grazing Acre Z

(Bothy Band の創設メムバーでにイリアンパイプ奏者の Paddy Keenan とギリスト兼シンガーの Tommy OSullivan のコラボ・アルバム。2001 作。Hot Conya)

*TOMMIE CUNNIFFE:Unbuttoned Z

(ロスカモン出身のアコ奏者の 2007 年作。クレアとゴールウェイ曲が多いが、飛び跳ねるリズムの一音一音が絶え間のないメロ

ディーとなって気持ちよく滑空する。職人芸。Tommiecunniffe)

[CD/LAPLAND]

*ASSU:Luoteniegut C
(サーミ人でヨイク・シンガーの Ulla Pirttijärvi がヴォーカルのÁššu の６年振りの新作。久し振りに聴く Ulla のヨイク。どんなヨイクのアルバムよりも深い味わいがあって驚かされる。本作収録の曲は動物、自然、冷たい風、友人や親戚の思い出など Ulla にとって夢のような曲だという。呪術的な響きのヨイクに様々な物語がうたい込まれているのだが、ヴォーカルに磨きがかかっているうえに Kenneth Ekornes のパーカッションと Olav Torget の各種ギターとンゴニによるアフリカ音楽のような土俗的な伴奏を伴って、インパクトの強いヨイクにレベルアップしている。内ジャケットに見る Ulla はラップランドでサーミ人として生きるたくましそうな中年おばさん。ゲスト:Olov Torget {５曲でヤギの角笛}。2025 作。Nordic Notes)

*ULLA PIRTTIJARVI:Ruossa Eanan C
(サーミ人シンガーの Ulla Pirttijärvi の 1997 年リリースのデビュー作。収録時 26 歳。デビュー時より見事なヨイク節。Atrium))

[CD/FINLAND]








(Nouse Luonto) (Emmi Kuittinen) (Pauanne)

*NOUSE LUONTO "Lauluja Monimuotoisuudesta" C
(本作のテーマは「北欧の生物多様性の歌」。その旗印のものに集ったフィンランドのフォーク・シンガー/ミュージシャンは、Frigg,Antti Paalanen,Kasvu,Maria Kalaniemi,Piia Kleemora,Disiree Saarela,Akkajee Ánnámarét & Maja Kauhanen,Anette Akerlund,Akkajee,Kimmo Pohjonen,Maria Kalaniemi & Maja Kauhanen,Yhteiskapple{以上演奏者順)。本作はシンガー/ミュージシャンが入れ替わり立ち替わりな上に、無味乾燥なタイトルから想像されるよりも遙かに素晴らしい、フィンランドのトラッドの感動のアルバム。おそらくそれはテーマに賛同したフィンランド生え抜きのミュージシャン達が現時点での最高のパフォーマンスを披露していること。加えて初耳の、例えば Antti Paalanen や Akkajee Ánnámarét & Maija Kauhanen やその Maija Kauhanen が参加したヴォーカル・グループの Yhteiskapple などサーミ或はサーミ風シンギングが実に素晴らしく、彼らの土俗的な唄がコンセプト・アルバムとしての価値を高めているからだろう。フィンランドから素晴らしい音楽の贈り物。P22 のブックレット{フィンランド語と英語}付。2024 作。Nordic Notes)

*EMMI KUITTINEN:Surun Synty C
(フィンランドのカレリア地方とイングリア地方の歌唱スタイルを専門とするトラッド・シンガーの Emmi Kuittinen の 2023 年作。

フィンランド音楽賞の"Emma Gaala"で年間最優秀フォーク･アルバムにノミネートされたという本作。アルバム･タイトルは｢悲しみの誕生｣の意。三人のミュージシャン～Antti Rask{ヴｫｰｶﾙ、ｳｸﾚﾚ、ﾁｪﾛ},Mimmi Laaksonen{ヴｫｰｶﾙ、管楽器、ｵﾙｶﾞﾝ},Kirsi Vinkki{ヴｫｰｶﾙ、ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾖｳﾋｯｺ}～との共演で、Emmi がリード･ヴォーカルを務める四人グループ{皆さんシンガー}の色彩が濃い。本作｢悲しみの誕生｣はフィンランドの民族楽器の素朴な響きと Emmi の暗たんとしたシンギングは、本作のタイトルそのままの印象で、古き貧しき時代のフィンランドの家庭にタイムスリップしたかのよう。しみじみ感たっぷりで、何とも言えず心に沁みる。昔フィンランドに行ったときに滞在先の奥さんが｢フィンランド人はメランコリックなのよ｣と言っていたことを思い出した。Nordic Notes)

*PAUANNE:Joku Raja Rakkaudessakin C

(フィンランドのフォーク･デュオ"Pauanne"～Kukka Lehto{ヴｧｲｵﾘﾝ、ヴｫｰｶﾙ、ｶﾝﾃﾚ、ﾆｯｹﾙﾊﾙﾊﾟ、ﾉｺｷﾞﾘ、ｻﾝﾄﾞﾗﾑ},Abdissa Assefa {ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ、ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ･ヴｫｰｶﾙ他}～の三枚目。一枚目はフィンランドの音楽業界で最も権威のある賞であるエマ賞を受賞したという。デュオだが、合計七名のシンガー/ミュージシャンが入れ替わり立ち替わり共演をしていて、音楽性は男女のシンガーをフィーチャーしたトラッド･グループのタイプ。彼らは、前世紀に記録されたフィンランドとカレリア地方のアーカイヴ録音テープの古い曲を現代に甦らせる。男女のヴォーカルは古謡の響きを保持しつつ、伝統楽器と電子音等をミックスして創作した音楽は不思議なフィニッシュ･トラッドの世界を創り上げている。真新しくもあり、古くもある。2024 作。Nordic Notes)

*SALAMAKENNEL:IV C

(1989 年、1990 年、1992 年に枚のアルバムをリリースした後にバンド活動を停止していた Salamakennel～Arto Järvelä{ﾌｨﾄﾞﾙ、ﾏﾝﾄﾞﾘﾝ、ﾆｯｹﾙﾊﾙﾊﾟ}、Hannu Saha{ｶﾝﾃﾚ},Kimmo Känsälä{ﾍﾞｰｽ}、新加入の Antti Kettunen{ｱｺｷﾞ、ｴﾚｷ、ﾂｨﾀｰ、ﾍﾞｰｽ}の 30 数年振りの新作。聴くなり懐かしさがこみ上げてくる JPP スタイルのフィンランドの伝統音楽のペリマンニ音楽＋α。メインは Arto Järvelä。Arto はフィンランドの伝統的フィドル音楽を愛しむように演奏し、共演メムバーが響演するスタイルで、カンテレの大家 Hannu Saha{フィンランドのフェスで名刺交換した思い出}のカンテレと Antti Kettunen のツィターが爽やかさを添えている。ゲスト:JPP,Jonna Tervomaa{ヴｫｰｶﾙ}。収録時 Arto Järveläは 60 歳。フィドルの音色があたたかい。2024 作。Bafe's Factory)

**[CD/NORWAY,SWEDEN,DENMARK]**

*VIIK:Sagt C

(Viik はノルウェーのカリスマ的なシンガーの Elisabeth Vik 嬢率いるノルウェー、スウェーデン、デンマーク出身メンバーによる汎ノルディック･フォーク･グループ。妖精の歌声の Elisabeth の美麗で軽やかなシンギングは正に白眉な上にシスター{中世のシターン系弦楽器}、フィドル、コントラバス、パーカッション、ハーモニカ等によるバンド･サウンドはある種ファンタスティックな汎ユーロ･トラッド＆フォーク･ロックを創作していて魅惑的。中世音楽の要素を取り入れた豊かなバンド･サウンドに乗っ

て､Elisabeth はアップテンポの唄もまたスローな唄も自由自在。
その一体感は完璧＋α。彼らは中世の物語の世界やおとぎ話の
世界へと誘う。2024 作。Nordic Notes)

[CD/SWEDEN]

*LJUS OCH LYKTA:Ljus Och lykta B
(三姫一太郎の四人組トラッド･バンド"Ljus Och lykta"の爽快
デビュー･アルバム。曲目のほとんどはスウェーデン舞台芸術庁
のアーカイブ。コレクションで見つけ出したトラッド曲だそう
だが､彼らは若々しく自由闊達なソロ･シンギング＆ハーモニー
で数々の伝統歌を生き返らす。伴奏楽器はフィドルとギター。ス
ウェーデンのトラッドの香り立つフィドルが良い感じで北欧ト
ラッド色を高めている。2022 年。Caprice)

*HOVEN DROVEN:Trad Z
(Trad と題された Hoven Droven の 2021 年作。1989 年結成以来､30 年
以上にわたってスウェーデン･スタイルのフォーク･ロックを果
敢に創作してきた彼らが初心の帰りつつ､腕を上げた演奏力と
表現力で取り組んだ 30 周年記念アルバム的性格の快作。Heilo)

[CD/NORWAY 他]

*JUNI HABEL:Carvings C
(ブリティッシュ･フォーク･タイプのノルウェーの女性 SSW､
June Habel の 2023 年作。ほとんどの曲を祖母の家で録音をした
という本作は､さざなみのようなギターが特徴的なギターの弾
き語りで､心を鎮め密やかにうたう彼女の唄の世界にじわじわ
っと引き込まれる。極上の 70 年代ブリティッシュ･フォーク風
アルバム。唄は英語。Basin Rock)

[CD/LITHUANIA,ESTONIA,LATVIA]

*THE BALTIC SISTERS:Varav/Varti/Vartai 在庫 1 枚 C
(Baltic Sisters はリトアニア､エストニア､ラトビアの４人の
女性歌手～Marion Selgal{ｴｽﾄﾆｱ}､Laurita Peleniūtė{ﾘﾄｱﾆｱ}､
Vineta Romāne{ﾗﾄﾋﾞｱ}､Liene Skrebinska{ﾗﾄﾋﾞｱ}～からなる女
性ヴォーカル･グループ。四人の出逢いは 2022 年にリスボンで開
催された Womex。リトアニアの合唱{ポリフォニック･ソング}に
対する共通の情熱を通じてグループ結成したという。四人はそ
れぞれ自国で伝統音楽のバンド{Marion Selgal は 6hunesseq の
ヴォーカル}やシンガーや歌唱指導者としての活動中のバルテ
ィック･トラッドの現役バリバリの歌姫。彼女等は口琴の伴奏や
コクレの伴奏で､あるいは無伴奏でバルト三国の伝統歌を四色
のシンギングでカラフルなヴォーカル･ミュージックを創作す
る。生まれた唄は美しく不思議で力強い。表ジャケットは三姫だ
が内ジャケットは四姫{麗しい！}。全 14 曲。2024 作。CPL Music)

[CD/ESTONIA]

*6HUNESSEQ:Ma Olen Maa Peal V66ras C
(6hunesseq は女性四人エストニアの女性四人組トラッド･グルー
プ。結成は 2021 年。ヴォーカルは Marion Selgall と Greta Liisa
Grunberg の二姫。二人のソロ･シンギングとデュエットはフィン
ランドのヴァルティナのシンギング･スタイルと通じる印象だ

が､Marion と Greta の唄は控えめで優美で厳か。二人の唄もパイプオルガン､フィドル､タルハルパ{リラ型の弓奏弦楽器演奏}､タンバリン､片面太鼓等による民俗性豊かな伴奏も深い森の中に誘われるようなしっとりとした不思議感がある。二人の掛け合い唄も呪文のようにも聞こえる。北欧系トラッド･アルバムとして秀逸。2024 作。Nordic Notes)

*SILD:Tro Z

(Sild はエストニアの女性シンガーでフィドル奏者の Sille Ilves とウェールズのギター､ハモンドオルガン奏者の Martin Leaman のデュオ。Sille の極北的で神秘的なシンギング{トラッド･シンガーとしてトップ･クラス}は絶品な上に､二人が奏でるアコースティック･トラッド･サウンドは厳かな深みがある。エストニアのトラッドとウェールズのトラッドとが彼ら流にナチュラルにブレンドされていて､トラッド･アルバムとして秀逸。Produced by Ceri Rhys Matthews。2008 作。Fflach)

[CD/NETHERLANDS]

*CHIMERA:Obstakel D

(オランダの Stoof から発売されていたオランダの 5 人組トラッド･グループ"Chimera"の 1981 年作の二枚目の CD 盤。当時のタムボリンのベストセラー。美声ヴォーカルの Marry Verkade を要した彼らのトラッドは中世ヨーロッパ風のエレガントさを内包した魅惑のユーロ･トラッド。オランダ発ユーロ･トラッド風エレガントな情緒と優美さと新鮮さは不変。ユーロ･トラッドの名盤。1981 年/2024 作。Pan)

[CD/SIBERIA]

*VEDAN KOLOD:Birds C

(Vendan Kolod はロシアはシベリアのクラスノヤルスクの家族三名から成る民俗音楽グループ。ヴォーカルの Tatiana のヴォーカルはサーミ･シンガーのヨイクのような呪術的な神秘性があって孤高。またカンテレ系古楽器のグスリや口琴や軍笛や各種打楽器などの古代ロシアの民族楽器のほかブズーキ､ギター､マンドリン､カリンバ等による土俗性豊かな演奏は､物悲しげで､異世界音楽のような独特な民俗音楽を創作している。全曲｢鳥の唄｣。歌詞英訳付き。2024 作。CPL-Music)

[CD/MORDOVIA]

*MEREMA:Eryamon' Koytneva C

(五姫と二太郎の七人組エレクトリック･トラッド･バンド"Merema"の 2022 年作。これは強烈。メムバー達はモルドヴィアの村々で現地調査を行い､モルドヴィアの伝統的民謡を収集し研究。失われつつある民謡を女性シンガー達による伝統的な節回しと呪術的な響きのポリフォニー･コーラスで甦らす。唄も凄みがあるが､馴染みのない伝統楽器と家庭用品＋電気楽器による土俗性豊かで斬新な演奏も圧巻。歌詞英訳付き。CPL-Music)

[CD/HUNGARY]

*KOLINDA:Incantation D

(Kolinda の 1997 年作。初仕入れ？メムバーは Peter Dabasi{ヴォ-

カル、マンドチェロ、カヴァル他},Dora Kovats{ヴォーカル、ヴァイオリン、フルート},Gyorgy Róbert{リコーダー、オーボエ},Lilla Vírhelyi{ヴォーカル、ヴァイオリン、ガドゥルカ他},Peter Koszegi{ダブルベース}。ハンガリーの民族音楽とバルカン半島の音楽とアラブ音楽等の音楽要素を混ぜ合わせた独創性のあるKolinda流ユーロ・トラッド/ワールド・ミュージック。Pan)

*KOLINDA:Forgotten Gods D

(Kolindaの2000年作。初仕入れ？？メムバーはKriszta Kováts{ヴォーカル},Péter Dabasi{ヴォーカル、マンドチェロ、カヴァル他},Dora Kovats{ヴォーカル、ヴァイオリン、フルート} Peter Koszegi{ダブルベース},Lilla Vírhelyi{ヴァイオリン,Tibor Pongrácz{パーカッション},Csaba Gyulai{パーカッション},Endre Juhász{オーボエ}。女性シンガーのKriszta Kováts を迎え、汎東欧～西アジア的悠久感のあるKolinda流異種交配エキゾティック・ミュージックを創作。Pan)

*MESZECSINKA:Allj Bele A Melybe C

(北欧の魔性的トラッドを彷彿させるフォーク・ロック・グループ"Meszecsinkaの2019年作。彼らの深淵な野性味と無国籍でエキゾティックな音楽は天下一品。加えて聖と俗を併せ持つOláh Annamaria嬢のエキゾティックなヴォーカルも天下一品。孤高のハンガリー発フォーク・ロック。CPL-Music)

☆ ☆ ☆ ☆ その他色々 ☆ ☆ ☆ ☆

※在庫各1～2枚。検品してお送りします。

**(CD/USA,Singer&Songwriter ほか)**

*JOE HENRY:Fireman's Wedding(1994作。Mammoth) D

*THE HARRY SMITH CONNECTION "A Live Tribute To The Anthology Of American Folk Music A

(Roger McGuinn,John Sebastian & The Band,Geoff Muldaur,Dave Van Ronk,New Lost City Ramblers,Peter Stampfel他。全９曲。1997作。Smithsonian Folkways)

*TOM PAYNE:Ten Lucky Pennies A

(約30年前の当店SSWアルバム・ベストセラー。1996作。Waterbug)

*STANCEY EARLE AND MARK STUART:Must Be Live A

(二枚組。2003作。Gearle)

*ARLO GUTHRIE:Alice's Restaurant(1996作。Rising Sun) A

*THE BEST OF MOUNTAIN STAGE "Volume Two Live" A

(June Tabor,Maura O'Connell,Delbert Mcclinton,John Prine,Jimmie Dale Gilmore,John WesleyHardin,REM,Billy Bragg他。1991作。Blue Plate)

*LIVE FROM THE MOUNTAIN STAGE "Lounge" A

(Dan Hicks,Dave Van Ronk,NRBQ,Jane Siberry,Mose Allison,Holly Cole,Bob Thompson他。1998作。Blue Plate)

*HUGH BLUMENFELD:Rocket Science Z

(Jack Hardy門下生SSWのHugh Blumenfeldの1998年作。自身のギター弾き語りを要にした誠実な唄たち。SSW/フォークの原点。w.Mark Dunn。1-800-Prime-CD))

*ONE FELL SWOOP:Look Out Z

(女性シンガーのDade Farrarがヴォーカルの軽やかながら煮込み味のルーツロック。1998作。Brambus)

*ROBERT EARL KEEN:Gravitational Forces Z
(Produced by Gulf Morlix,Robert Earl Keen & Ray Kennedy。
ほっこり。2001 作。UMG)
*THIS NOTE'S FOR YOU TOO! "A Tribute To Neil Young" Z
(二枚組。Ad Vanderveen,Tom Rapp,Continantal Drifters,Sonya
Hunter,Walkabout,Steve Wynn,etc. 37 曲。1999 作。Inbetweens
*PROFESSOR LOUIE AND THE CROWMATICS:Wings On Fire Z
(Levon Helm と Rick Danko に捧げた曲３曲を含む 13 曲。2013 作。
Woodstock)
*MARGO HENNEBACH:Michaelean(1996 作。1-800-Prime-CD) Y
*WESTERN ELECTRIC:Western Electric Y
(Produced by Sid Griffin。Gadfly)
*TOWNES VAN ZANDT:In The Beginning Y
(バーコードの２ミリほどの穴が開いています。2003 作。Compadre)
*BILLY C,FARLOW;I Ain't Never Had Too Much Fun Y
(ゲスト:Fred James,Mary-Ann Brandon。1991 作。Appaloosa)
*DARRYL HOLTER:Darryl Holter Y
(ルーツロック・スタイル SSW。w.Greg Leisz。2008 作。Fellside)
*SKIP GORMAN:Lonesome Prairie Love Y
(ゲスト:Connie Dover。1996 作。Rounder)
*KASEY JONES:Never Wear Panties To A Party(2002 作。IGO) X
*JUNE CARTER:Live Recordings From The Louisiana
Hayride(2003 作。Scena) X
*THE SILOS:Heater(1996 作。Normal)
*TAMMY FAYE STARLITE:On My Knees X
(ミニアルバム。レーベル名・発売年不記載)

**(サンプル CD/USA)**
*GARY CORNELIUS:Mending Fences Y
(ブックレットに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
最高にほっこりな SSW アルバム。影響を受けたシンガーとして
Neil Young,Nick Drake,Bob Dylan,Townes Van Zandt,Bert
Jansch,Joni Mitchell,Dan Penn,Gram Parsons 他。1995 作。
One Man Clapping)
*SUSAN PIPER:New On The Planet X
(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
ゲスト:Lucy Kaplansky,Catie Curtis,Richard Shindell。
1997 作。Sliced Bread)
*TROVA:Trova X
(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
1991 作。Red House)
*GRACE DARLING:Imaginary Lover X
(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
1997 作。NYNO)
*KENNY JACKSON AND FRIENDS:Over The Mountain X
(オールドタイム・ミュージック。裏ジャケットに Promo と書かれ
たほぼ新品のサンプル盤。2004 作。5-String Productions)

**(中古 CD/USA,Singer&Songwriter)**
*THE SCHRAMMS:Dizzy Spell Z

(ブックレットを留めるホッチキスがサビついていて、サビが染みついているが、彼らのルーツロックは滅茶苦茶最高。CD 自体は新品。1998 作。Checkered Past)
*SARAH:Flight Of The Stork ¥200
(ブックレットを留めるホッチキスがサビついていて、サビが染みついています。CD 自体は新品。1989 作。Great Northern Arts)

**(CD/USA{Trad,Celtic 他})**
*MAGGIE SANSONE:Dance Upon The Shore A
(1994 作。Maggie's Music)
*GAIL WILLIAMS:Women Of A Certain Age Z
(副題"Songs From The American Tradition"。Martin Carthy 推薦の米国トラッド・アルバム。渋い英国トラッド風。2004 作。Rossendale)
*ARM & HAMMER:A La Carte X
(Anna Duff{ﾊﾝﾏｰﾀﾞﾙｼﾏｰ}と Stefan George{ｷﾞﾀｰ}のデュオ。発売年不記載。Blue Rhikky)

**(CD/Canada)**
*BRUCE COCKBURN:Dart To The Heart(1994 作。True North) Z
*LAWRENCE GOWAN:But You Can Call Me Larry X
(Produced by Marotta。ゲスト:John Sebastian。1993 作。Anthem)
*LORRANE SEGATO:Luminous City(1997 作。True North) X
*GANDHARVAS:Sold For A Smile(1997 作。Watch Music) X

**(サンプル CD/Canada)**
*CORBIN MURDOCH & NATUTICAL MILES:Tell Me Again
How This Place Got Its Name X
(バーコードに一ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。2005 作。Corbin Murdoch)

**(CD/Canada{Trad})**
*GWAZIGAN:Y'avait Du Mande A
(Sylvan Barou{ｱｲﾘｯｼｭ・ﾌﾙｰﾄ、ﾛｰ・ﾎｲｯｽﾙ}ほかブルターニュの名うてのトラッド・ミュージシャンの五人組"Gwazigan"の 2000 作。彼らが挑むのはカナダのフランス系ケベックのトラッド。聴き親しんだケベックのトラッド＋アイリッシュ～ケルティックな要素が加味されてていてノリ抜群！Coop Breizh)

**(CD/UK{SSW,Folk,Rock})**
*CAVIL:Marces' Tails A
(おそらく英国人{？}SSW の Gareth Cavill の 2010 年のソロ。内省的で虚無感漂う魅惑の 1970 年代ブリティッシュ・フォーク風アルバム。KHZ110)
*GRAHAM LYLE:Something Beautiful Remains Z
(2003 作。Hypertension)
*KILBURN AND THE HIGH-ROADS:Handsome Z
(未発表音源曲３曲を含む全 18 曲。1999 年/2004 作。Castle)
*ELBOW JANE:3 Side Island Z
(アコースティックな西海岸カントリーロック風ブリティッシュ・

フォーク。秀逸。2009 作。Fellside)
*SUZANNE CHAWNER:On Primerose Hill Y
(牧歌的フォーク。1994 作。Round Tower)

**(サンプル CD/UK)**
*JULIAN DAWSON:Move Over Darling A
(バーコードに７～８ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
w.Dan Penn,Richard Thompson,Roches 他。1997 作。Compass)

**(CD/England)**
*PETER BELLAMY:Fair Annie A
("Peter Bellamy"{1975 作}と"Fair Annie"{1979 作}の"２in１"
＋未発表音源曲４曲の計 33 曲。Fellside)
*JOHN KIRKPATRICK:The Dance Of The Demon Daffodils Z
(2009 作。Fledg'ling)
*BENJI KIRKPATRICK:Boomerang Z
(w.John Kirkpatrick,Sue Harris,Seth Lakeman 他。2008 作。
Navigator)

**(CD/Scotland,England)**
*BONNIE RIDEOUT:Soft May Morn Y
("Music From The North Highlands & Western Isles Of
Scotland"。1994 作。Maggie's Music)

**(中古 CD/Scotland)**
*BACHUE CAFE:Bachue Cafe Z
(経年劣化元新品 CD。ハープ奏者の Corrina Hewat とピアノ奏者＆
ギターの David Milligan の二人組 Bachue Cafe の 1996 年作。今聴
いても、Corrina のハープはセンス＆テクニック抜群の素晴らし
さ。David のジャズっぽい演奏との見事な融和。1996 年作。
Highlander Music)

**(CD/Ireland 他)**
*NOREEN CULLEN & ADRIAN BURNS:Bow Bridge A
(スウィンギング･スタイルを取り入れた女性アイリッシュ･フィ
ドラーの Noreen とギター伴奏の Adrian とのデュオ･アルバム。今
聴いても新鮮。稀少盤。1991 作。Celtic Music)
*AINE FUREY:Sweetest Summer Rain A
(Bohinta のメムバーでイリアンパイプス奏者 Finber Furey の娘
の Aine のケルティック･ファンタジーな？女性シンガー･アルバ
ム。Produced by Martin Furay{Finber Furey の息子}。1999 作。
Celtic Connections)
*MICHELLE LALLY:If This Be Love A
(Frankie Gavin 一押しの女性シンガー、Michalle Lally の 2006 年
作。w.Frankie Gavin,Tim Edey,Eugene Kelly。Tara)
*ANAM:Saoirse(1995 作。Anam) A
*CELTIC FIDDLE FESTIVAL:Equinox(2008 作) A
*PAUDIE O'CONNOR & JOHN O'BRIWN:Wind & Reeds Z
(Featuring Jim Murray。2008 作。PBCD1976)
*MANUS McGUIRE:Fiddlewings(2006 作。FWCD01) Z

*THE BOFIELD CEILI BAND:100 Years A Growing Z
(2000 作。Hummingbird)
*BRIAN CONWAY:Consider The Source Y
(with Niamh Parsons,Joanie Madden,Billy McComiskey,
Brendan Dolan,Dan Milner,他。2008 作。Clo Iar Chonnachata)
*DAN MILNER:Irish Pirate Ballads And Other Songs Of
The Sea(2009 作。Smithsonian Folkways) Y
*IARLA O LIONAIRD:I Could Read The Sky Y
(2000 作。Real World)
*MATT & SHANNON HEATON:Tell You In Earnest
(2004 作。ESLCD 011)
*DAMIEN McGREHAN:Tin Fiddle Y
(ドニゴールのフィドル奏者の革新的音楽。2006 作。Damien
McGeehan)
*IRISH SESSIONS Y
(De Dannan,Clannad,Mary Black & General Hubert,Dolores
Keane,Mairead Ni Dhomhnaill,Paddy Glackin,Buttons & Bows
他、全 16 トラック。2001 作。Forever Gold)
*CELTIC JOURNEY Volume 10 Y
(Kevin Crawford{2ﾄﾗｯｸ},Joannie Madden{2ﾄﾗｯｸ}.Matt Molloy
& Sean Keane{2ﾄﾗｯｸ},Joe Burke,Seamus Egan,Kornog,Frankie
Kennedy & Maired Ni Mhaonaigh,Jack Coen,Deanta,Jerry
O'Sullivan。全 13 トラック。1999 作。Eureka Music)

(DVD/Ireland) PAL
*THE IRISH PRAYERS "Mystic Songs And Ballads" X
(62 分。2005 作。Delta Music)

(サンプル CD/Ireland)
*ANDY COONEY:One For The Ages X
(ジャケット裏のバーコードに店使用限定のシールと CD のラベル
に Promotional Copy と書かれたほぼ新品のサンプル盤。2004 作。
Rego Irish)
*BILLY McCOMISKEY:Outside The Box X
(バーコードに５～６ミリの穴の開いたほぼ新品のサンプル盤。
2008 作。Compass)

(CD/Finland)
*BARKA VALI:Skogsflot A
(ボスニア湾のオーランド諸島の二人の女性シンガーを含む７人
組フォーク･ロック･バンドの 2000 年作。言葉はスウェーデン語。
Barka Vall)

(CD/Norway)
*ASNE VALLAND NORDLI:Julekvad A
(天使の歌声の Asne 嬢のクリスマス･キャロル･アルバム。ウレン
サーケル教会での録音。1996 作。FXCD177)
*CHATEAU NEUF SPELEMANNSLAG:Gamle Guro Y
(副題"New Roots From Norway"。1996 作。Feuer & Eis))

(CD/Denmark)
*BALTINGET:Special A
(９人編成の大型エレクトリック･トラッド･ダンスバンド
"Baltinget"の 1998 年作。メチャ最高。Balt.CD.3)

(サンプル CD/Denmark)
*SVOBSK:Sig Mig X
(ディスクに"Promotion Only"と記されたほぼ新品のサンプル盤。
2005 作。Go')

(CD/Belgium,Flanders)
*HELEN FLAHERTY:Oft Times I've Been Cheery C
(Shantalla のヴォーカルの Helen のソロ。2004 作。Wild Boar Music)

(CD/France,Bretagne)
*ANNE DE BRETAGNE "Live Au Chateau Des Ducs De Bretagne"
¥2890(税込み¥3179)
(ブルターニュでのライヴ三枚組。Fairport Convention{11 曲},
Celile Corbel{5 曲},Tri Yann,他。2010 作。Babaika Prod)
*GABRIEL YACOUB:Trad.Arr. D
(名盤中の名盤。1978 作。Boucheric Prod.)
*MALICORNE:Concert Exceptionnel Aux Francofolies De
La Rochelle A
(Malicorne|Gabriel Yacoub,Marie Yocoub,Hughes De Courson,
Laurent ercambre,Olivier Kowalski}による 2010 年のライヴ。
14 トラック。2010 作。Artsudio)
*JIMME O'NEILL:Real(2008 作。Keltia Musique) Y
*JEAN BLANCHARD･ROBERT AMYOT･SYLVIE BERGER
:Fleur De Terre Y
("Chansons Traditionnelles D'en France"。1999 作。Beau Temps)
*PLANTEC:Mekanik(2010 作。Coop Breizh) X

(CD+DVD/Bretagne)
*PLANTEC:Live Z
(CD と DVD のセット。2008 年のライヴ。2009 作。CoopBreih)

(CD/Portugal)
*ERCILIA COSTA COM ARMANDINHO(1930) Z
(世界的に有名なファド･シンガーのエルシーリア･コスタ{1902-
1985}のアーカイブ･アルバム。ファド･ギタリストの Armandinho
との共演を含む全 19 曲。1996 作。Heritage)

(CD/Basque)
*OLATZ ZUGASTI:Kantu Baten Bila Nobil C
(バスクのシンガーでハープ奏者の Olatz 嬢のバスク風エレガン
トなフォーク･アルバム。Produced by Benito Lertxundi。
1991 作。Elkar)
*SOROTAN BELE:Mundu Hegian Y
(バスクのフォーク･ロック･バンド"Sorotan Bele"の 1994 年作。
Elkar)

(CD/Galicia)
*FALTRIQUEIRA:Efffecto Y
(ガリシアの女性４人組ヴォーカル･グループ"Faltriqueira"の2006 年作。各種民族楽器を奏でて溌剌と唄う彼女等の唄{大半は伝承歌}と音楽は大衆的で多彩。地中海音楽の香りも。Resistencia)

(CD/Italy)
*TAVERNANOVA:Matengue Z
(イタリアのローカルなバンドだが、リズムが多彩で世界クラスのトラッド＆ワールドミュージック･アルバム。1996 作。CNI)
*UARAGNIAUN:Uaili(1996 作。Officina & Piazza) Y
*MAZAPEGUL:Piccolo Canto Nomade(1998 作。CNI) Y

(CD/Corsica)
*VOICE DI CORSICA "Polyphnies" Z
(コルシカ島の古典的な合唱{ポリフォニー}のアルバム。サントクロワ教会教会での録音。2001 作。Olive Music)

(CD/Gypsy,Klezmer,Balkan)
*KALMAN BALOGH GYPSY CIMBALOM BAND:Live In Germany Z
(2007 作。Traditional Crossroads)
*RUTH YAAKOV ENSEMBLE:Ziara Z
("Sepharadic Women's Songs Of The Balkan"。2004 作。Oriente Musik)
*CLASSIC NOA:The Israeli Songbook(2012 作。Pinorrekk) Z



（春眠。まり）

（あとがき）
*4 月 17 日から 4 月 19 日まで東京に行ってきました。去年も行った西荻窪のカフェ MJG で、学生時代の音楽サークルの先輩後輩 6 名に声を掛けて呑み会をしました。
18 日、高尾山口のアイリッシュパブ「ケルティック･ムーン」で、オーナー夫妻とお話ししながら腹ごしらえをして、去年も訪ねたあ

きる野のカフェ･トラモナへ。松村洋さんと電車で合流し、駅に下りたら、駅で４名の方ともバッタリ。皆さん 20 数年振り！今回は８名の方（皆さん高尾時代に即席店舗に来られていた方ばかり）と、思いがけずの出会いもあったり、思い出話･音楽談義も活発で、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。上京前に入荷した Eric Andersen の"Blue River Live In Japan"を掛けてもらったら、大盛り上がり。
19 日は都内のアイリッシュ･ミュージック･ファンのお宅（神社）で数時間、和風の美しい庭を眺めながら談笑しました。
*ディランの伝記映画「名もなき者」は観られたでしょうか？観られた方から「良かった」「感動しました」等のメッセージが届いています。ぼくはしばらく他人の感想を聞きたくなくなるほど、ディランを演じるティモシー･シャメラのディランになりきった唄一曲一曲が感動ものだった上に、ディランとウッディ･ガスリーやピート･シーガーとの関係やディランのロックへ転向など活字で知っているエピソードや事件がリアルに映像化されていて、始まりからエンドロール（音楽は「ミスター･タンブリン。マン」！）まで感動の連続でした。
*2007 年の fROOTS に掲載された「タムボリン 30 周年記念」のインタビュー記事をタムボリンの紹介目的で英国のフォーク･シンガーの Liz Overs に送ったら、折り返し返事が届きました。「40 数年間『Human song』で続けてきたことは本当に素晴らしいですね。fRoots のインタビューであなたのお話を伺って、本当に楽しかったです。古い歌詞の魅力については私も同感です。私にとって、古い唄をうたうことの魅力は大きく、世界を違った視点で見ることができるからです」
*タムボリンが湯布院に引っ越してきて今春 30 周年を迎えました。湯布院塚原高原の生活を楽しみながら、好きなことをしていたら、あっという間に 30 年が過ぎてしまいました。開店 50 周年まであと２年･･･。
*これからも宜しくお願いします。（船津）



**（お隣の八重桜と由布岳）**